

微生物学

講 師	佐々木 祐 子	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を修得する。				
授 業 概 要	微生物についての全般的な生物学的理解を深める。ヒトに疾患を引き起こす微生物の病原因子や感染成立の要件などを考察し、化学療法と消毒・滅菌法の意義を理解する。また、病原微生物を排除する生体側の機構(生体防御機構)について理解する。				
学 習 方 法	パワーポイントを用いた講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科疾患を理解する上で大切な科目です。授業内容を理解するだけでなく臨床に際して治療の意義を考える手引きにしてほしい。口腔微生物学と総合的に講義を進めるので、便宜上予定の通りではないことがあるので注意すること。				
参 考 書	吉田真一、柳雄介 編 「戸田新細菌学」 南山堂 その他、適宜紹介する。				
教員の職務経験 (科目との関連性)	歯科医院での勤務経験から、歯科疾患の予防や口腔衛生への理解を得るには口腔内微生物と疾患の関係を明快に説明できる能力が必須と考える。近い将来の臨床現場を意識させながら、口腔微生物についての正しい知識を習得させる。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	感染, 微生物学総論(細菌)	感染と発症を説明できる。 細菌の形態学的特徴と基本的性状を概説できる。
2	微生物学総論(ウイルス, 真菌)	ウイルスと真菌の形態学的特徴と基本的性状を概説できる。
3	化学療法	化学療法の目的と原理を説明できる。
4	院内感染対策と滅菌・消毒	院内感染の原因と予防法について、滅菌・消毒法について概説できる。
5	主な病原細菌(グラム陽性細菌)	主な病原細菌について概説できる。
6	主な病原細菌(グラム陰性細菌等)	主な病原細菌について概説できる。
7	免疫	免疫機構を概説できる。
8	アレルギー, 免疫に関連する疾患	アレルギー, 免疫に関連する疾患を概説できる。